

誕生日の鎌倉

「鎌倉の自然と歴史をたずねて」～鎌倉広町緑地から腰越界隈を巡る～という新聞社の企画があり、私の誕生日の記念に参加を申し込みました。鎌倉に行くことがあっても、用件のみ、目的地に一直線、わき目も振らずに帰る夫のマダム・アッシィを担当していたものですから、これまで「鎌倉を案内して」と頼まれても何もできなかったのです。少しずつでも鎌倉に馴染もうと願って、エルミタージュのあるじも誘って、最初の一歩を踏み出しました。



湘南モノレールの西鎌倉で降りて、15名の一行は広町緑地に入りました。48ha（約160万坪）の広さの緑地が鎌倉の西に広がっていて、来年から緑地公園として整備されるとのことでした。入口は無造作な柵と立札があるだけの、殺風景なものでしたが、一応ほんの少し遊歩道が備えられていました。参加者は全員年齢的には老人ですが、幼稚園児のようにリュックにお弁当を入れて、気持ちはワクワク、足元はゆっくり、日差しを避けながら、輝く緑を楽しみながら、6キロの行程を歩き出しました。

これがスイカズラ、あれがコゴメウツギと、森林インストラクターのリーダーが教えてくださいます。ところが私は、山野草を、「草」と、十把一絡げでしか把握できないものですから、それぞれの違いが全く区別できませんし、その時わかった気がしても、ちょっと歩くと名前はおろか、形も忘れてしまうという有様です。一行の中には山野草にとっても詳しいご婦人方がおられて、これは何、あれは何と話し合っておられました。すごいなと思いました。ところが、インストラクターの説明が聞こえないほど、何度もお仲間同士でペチャクチャ。つい「ウルサイ！」。しーんとなったのには驚いたり、当然だと思ったり。なぜ、女性のお喋りは治らないのでしょうか。



私が認識できたものはただ一つ、漆の木の傷でした。日本では現在、漆はほとんどが輸入されているとのこと。木の幹に傷をつけてそこからにじみ出る樹液が漆とのことでした。両親の故郷の津軽では津軽塗が有名ですが、「バカ塗り」と言うほど何度も漆を重ね塗りすると聞いていたので、その木には特別の感慨を持ちました。でもカブレルかもしれないとのこと遠くから見たのです。

やがて湿地、ジメジメ。山道、ふかふか。竹藪の林のトンネル、急な坂道、木の根が絡み合っ地上に飛び出ている場所を一行になってエッチラ、オッチラと進んでいきました。途中数か所で、私にとってはすべて「木」でしたが、インストラクターは樹木の特徴、区別などを丁寧に教えて下さいました。野鳥の鳴き声を聞き分けて、中国から飛来しているガビチョウがうるさい、縄張り荒らしをしているとのこと。なるほど大きな鳴き声でした。山の中でウグイスの音色、ホトトギスのリズムを楽しみ、森林浴に浸りました。幸せいっぱいでした。ところが、私にとって最後の難所が待ち構えていました。「濡れた泥土の急斜面を、ロープを握って数メートル下る」という荒業です。昨夜の雨のせいです。他の方々は何とかクリアして、さすがでした。親切な方が支えて下さったのに、ドンくさい私は、滑って、振り回されて、尻もちをついてしまいました。何とかロープだけは離さなかったようでした。私のジーパンのお尻には「名誉の負傷」的泥んこがついてしまいました。ともあれ、無事に腰越方面に下ることが出来ました。その後のお弁当の美味しかったこと！鎌倉での楽しい誕生日となりました。満福寺で義経の気持ちを思って泣きたくなり、龍口寺で日蓮の信仰と働きの足跡を見て、感慨深いものがありました。

